



MOLÉCULE『ACOUSMATIC TOUR』はL-ACOUSTICS L-ISAで 暗闇に飛び込む



L-ISA Immersive Hyperreal Soundが、フランスのエレクトロニクス・アクティビストでDJの、Molécule『Acousmatic』360°ツアーを新たな空間領域へと導く

2021年9月

パリを拠点とするプロデューサーであり、Mille Feuillesレーベルの代表であるロマン・ドラエ（Romain Delahaye 通称：モレキュール）は、「ノマディック・エレクトロニック・ミュージックの先駆者」と呼ばれています。このアーティストは、遠く離れた場所から音楽のインスピレーションを得て、世界中を旅して環境音を録音し、生き生きとした雰囲気のある音楽作品に仕上げています。モレキュールは、大西洋の漁船、グリーンランドの村、ポルトガルのナザレの神話的な波の上など、過激な場所で音を録音します。最近では、ヴァンデ・グローブ・ヨットレースでトマ・リュイヤン（Thomas Ruyant）選手のヨットの音を録音しました。モレキュールは、ラジオ・フランスでイマーシブ・オーディオの開発を担当しているエンジニア、サウンドデザイナーのエルヴェ・デジャルダンの助けを借りて、自分の録音を空間的な音楽に変換しています。

今回、モレキュールとデジャルダンは、暗闇の中で聴くコンサートの観客に、360度の空間化された音の体験をもたらしました。「Acousmatic 360°」と名付けられたこのツアーのコンセプトは、L-AcousticsのL-ISA Immersive Hyperreal Soundテクノロジーを使用して実現されました。

「Acousmatic」という言葉は、ギリシャ語の「akousmata（ἀκούσματα）」（聞いたもの）に由来しています。これは、ピタゴラスにまで遡ることができます。ピタゴラスは、自分の存在が講義の内容を邪魔しないように、幕の後ろから生徒を指導しました。モレキュールは、この考えにヒント

を得て、照明を消すことで聴衆との相乗効果を生み出せると考えました。モレキュールとデジャルダンは、2018年にパリのレックス・クラブで演奏した後、このコンセプトを思いつき、実験的に暗闇の中で演奏してみました。

「コンサートは1時間の予定でしたが、お客さんが夢中になってくれたので、2時間以上続けました。」とデジャルダン氏は回想して言います。ポッドキャストで観客からのフィードバックを集めた後、MaMAフェスティバルの一環としてLa Cigaleで行われたライブで、このライブのセットアップはさらに改良されました。

照明を使わない360度サウンドの未来のコンサートでは、デジャルダンとモレキュールは客席の中央で演奏し、L-Acoustics Syvaシステムが演奏者と観客を取り囲みました。「観客との距離が非常に近いため、特別な関係を築くことができました。」とデジャルダン氏は言います。

「Acousmaticでは、私たちは台の上にいるのではなく、ショーの真ん中にいるのです。」とMoléculeは付け加えます。「空間化によってショーがどのようなようになるかという、作品やパフォーマンスの質が向上します。同時に、私たちは観客と同じ質の高い音を聞くことができるので、音の動きを非常に具体的に表現することができ、パフォーマンスをより深く、追求することができます。」

12台のSyva、2台のSyva Low、4台のL-Acoustics KS28デュアル18インチ・サブウーハーのサークルは、歪みのない十分なSPLを実現しています。「この点においてSyvaは本当に素晴らしいです。サラウンドシステムの真ん中にいると、まるで薔の中にいるような感覚になります。非常に新しい体験です。」とデジャルダン氏は続けます。



デジャルダン氏は、スタジオに戻ってこれらのレコーディングをミックスする際に、L-ISAを使用することで、ライブミックスの多くで楽器やサウンドが正確に定位されていることを指摘しています。Syvaのキャビネットが信じられないほど正確に再生することと、オブジェクトモードで録音することで、従来のステレオの制約を避けることができるため、ライブミックスを正確にローカライズすることができるのだと言います。L-AcousticsのL-ISA Controllerにパッチしたソフトウェアを組み合わせ、デジャルダン氏はそれぞれの音に対して動きをつけていきます。L-ISA Controllerのわかりやすいインターフェースは、高度なオブジェクト・ベース・ミキシングと、各サウンドオブジェクトのパン、幅、距離、高さの位置情報を制御する広範なプログラミング機能を可能にします。イマーシブ・テクノロジーを使用することで、観客に深い感情を与えることができます。

「空間化により、音楽の重要な瞬間を強化することができます。」と彼は言います。ライブパフォーマンスでは、デジャルダン氏は穏やかな瞬間を利用して、より静かな音に引き戻し、さらにすべての動きを止めます。そして、音楽が再び盛り上がってくると、360°の機能を使って素早い動きでその瞬間を強調するのです。

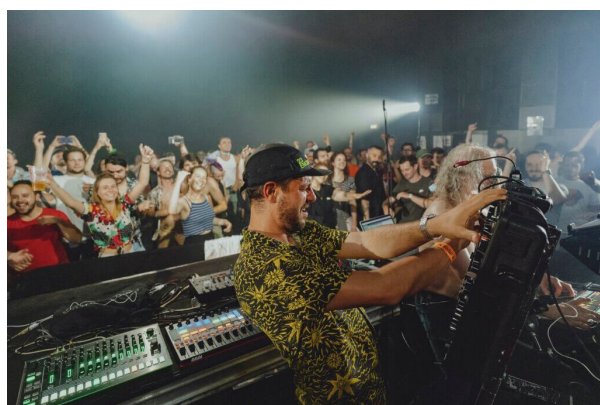
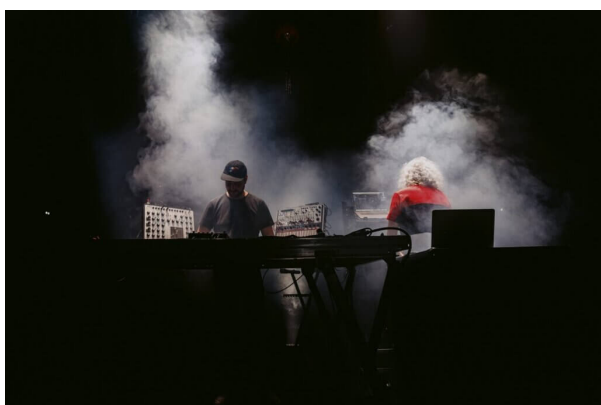
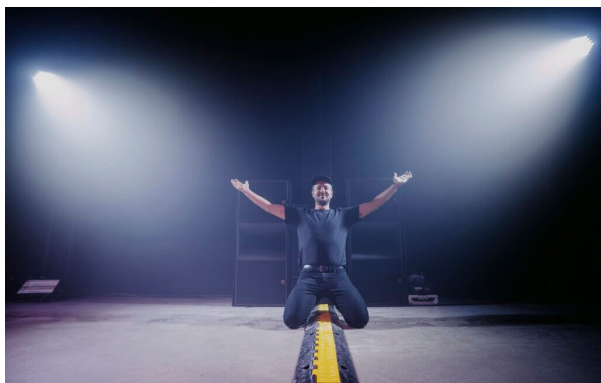
ステレオライブとイマーシブライブの違いについて、モレキュールは、イマーシブライブでは、曲の拡張バー

ジョンで演奏することが多いと語ります。

「時間をかけて動きを作り、観客と一緒に旅に連れて行くことができます。スタジオトラックをベースにして、そこから飛び出して自由になれるので、ライブではデジャルダンさんがやっていることに私が反応して、即興で演奏することができます。没入型オーディオは、私たちの間の相乗効果を得るために重要です。」

モレキュールの目標の一つは、デジャルダンと一緒に、自分たちの音楽をショーケースとして「世界の隅々に」届けることです。彼は、そのパフォーマンスがトップクラブにイマーシブ・サウンドシステムの導入を促す可能性があるかと信じています。モレキュールは、自分のライブで没入型サウンドに満足しているだけでなく、パフォーマンスやアートのためにも、クラブのシステムを没入型のものにアップグレードすべきだと考えています。「イマーシブ型ライブパフォーマンスでは、自分のスタジオよりも音が良いことに気が付きました！」と熱心に言います。

Live Acoustic 360° ツアーは2021年秋まで続きますが、モレキュールはL-Acousticsのイマーシブ・サウンドを使って、独自の感覚的なパフォーマンスを創造するために、粘り強くエレクトロリサーチを続けることを決意しています。



全ての写真提供: Goledzinowski